

集中したリハビリテーションで在宅復帰をめざします！

東病棟（回復期リハビリテーション病棟） 看護課長 原 努

2019年4月より当院は、新病棟として30床の回復期リハビリテーション病棟（東病棟）を開設し、約1年半が経過しました。

当病棟は、窓をたくさんとり、自然の光に溢れたとても明るく開放的な空間を持ち、患者さんは、そのような環境の中で、在宅に向けた集中的・積極的なリハビリテーションに取り組んでいます。脳卒中専門病院の中に開設された病棟であることから、急性期から一貫した脳卒中専門リハビリテーションを受けられるのが特徴です。



【配膳と指導】

当病棟では、専従医師 小林邦彦医師を中心に、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護福祉士、看護助手、ソーシャルワーカー、薬剤師、栄養士等の多くの専門職種がチームを組んで集中的なリハビリテーション



【直接的嚥下訓練】

を実施し、心身ともに回復した状態で自宅や社会へ戻っていくことを目指しています。各担当者は、入棟直後、起きる、食べる、歩く、トイレへ行く、お風呂に入るなどへの積極的な働きかけで日常生活動作の改善を図り、復帰を支援していきます。

当病棟では、1日約3時間のリハビリテーションを提供しており、さらにリハビリテーション時間以外にも、病棟の廊下を利用し、体を起こして生活するための細かな動作の習得を行っていただいています。



【整容の援助】

さて、現在、コロナ禍においては、患者さんが安全・安心にリハビリテーションに取り組んでいただけるように、感染予防対策を実施しています。

面会制限させていただく期間では、スタッフが患者さんの日頃のリハビリの様子や動作をビデオに撮影し、医師からご家族への説明の際に、そのビデオを通して日々患者さんが良くなっておられる姿を確認していただき、ご家族の安心につながるよう努めております。



【リハビリ開始時の安全確認】

面会制限は、患者さんにとりましても、ご家族にとりましても、私たち職員にとりましても、辛いものではありませんが、もうしばらく、ご理解とご協力を宜しくお願い致します。

さて、リハビリテーションは発症後早期から行われることが望ましいとされており、当院急性期病棟では、入院1～2日以内にリハビリテーションが開始となります。急性期病棟スタッフと連動できる当病棟は、情報共有が速やかにかつ充分可能なことから、転棟後も、患者さんに最適な医療やリハビリテーションを提供できるものと自負しています。



【運動療法】

今後も各専門職の技術や知識をより一層高め、患者さんに入院して良かった、と思っただけの病棟づくりを進めていきます。

また、今後は、内科や外科治療後に伴う筋力低下に対してのリハビリテーションにも取り組んでいく予定です。

地域に根ざした病院としての役割を果たせるように努めて参ります。